

# あいち病害虫情報 最新情報

平成25年11月18日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 気温は週毎に変動する見込み

1か月予報（名古屋地方气象台、11月15日発表）では、向こう1か月の降水量と日照時間は、ともに平年並の確率が40%です。なお、気温は1週目は平年並か低い一方で、2週目は平年並か高いと見込まれています。

## ムギの排水対策の徹底を！

安全で良品質のムギの生産には、赤かび病によるかび毒汚染の防止が必須です。排水不良は生育不良を招くだけでなく、赤かび病の発生を助長しますので、排水対策を十分に行いましょう。また、種子伝染性病害である裸黒穂病、なまぐさ黒穂病などを防ぐために、種子消毒をしっかりと行いましょう。

## キャベツ、ハクサイの病害虫に注意！

キャベツでは、一部地域でコナガが多発生しているほ場があります。コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

黒腐病の発生がみられる地域があります。風を伴う雨は発生を助長するので、注意しましょう。

キャベツやハクサイでは、菌核病が発生する時期です。発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。なお、本病の病原菌は多くの植物に感染します。菌核病が発生している地域では、他作物での発生にも注意しましょう。

ハクサイべと病の発生は、おおむね平年並ですが、一部地域で発生の多いほ場がみられます。今後も発生状況に注意して防除を行いましょう。

ハクサイでは、アブラムシ類の発生がやや多くなっています。また、キャベツほ場に設置したフェロモントラップでのオオタバコガの誘殺数は、引き続き平年より多い状況です。ほ場での害虫の発生状況を確認して、防除を行いましょう。

## 果菜類の灰色かび病

果菜類では、気温が低下する今頃から灰色かび病の発生が多くなるので注意しましょう。暖房機の設定温度を低くしている場合は、積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除き適切に処分しましょう。

## トマト葉かび病、トマトすすかび病

トマト葉かび病、トマトすすかび病は、湿度が高くなると発生が助長されます。灰色かび病と同様に多湿にならないようにしましょう。また、成り疲れは発生を助長するので、肥培管理にも気をつけましょう。

## イチゴうどんこ病、イチゴのハダニ類に注意！

イチゴうどんこ病は、多発生すると防除が難しくなるので、初期防除に努めましょう。また、窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理に努めましょう。

近年、ハダニ類の発生量が多い状況が続いています。ミツバチへの影響に配慮して、防除を徹底しましょう。天敵を利用する場合は、導入前に防除を徹底し、ハダニ類の密度を下げてから放飼しましょう。

## ナス、キュウリのミナミキイロアザミウマに注意！

粘着トラップにおけるミナミキイロアザミウマの誘殺数が多いほ場があります。ほ場での発生状況に注意し、早めに防除しましょう。

キュウリ黄化えそ病の発生を確認しています。本虫は病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底するとともに発病株を抜き取り、適切に処分しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820